



黒門（東側から撮影）



文化審議会からの答申を生徒に報告する田村校長  
（7月20日）



御殿内の一部屋「御座所」



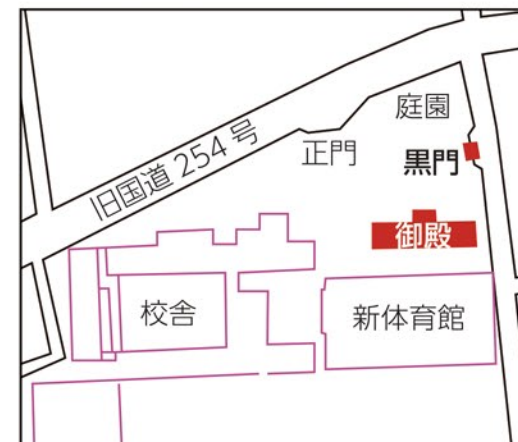
御殿（正面）と富岡高校生徒会の皆さん

1873 (明治6)	七日市小学校が御殿を借用し、開校
1874 (明治7)	第19番中学本部鍋川学校開校 七日市小学校が郊外に移転
1878 (明治11)	七日市小学校が再び御殿を借用
1897 (明治30)	群馬県尋常中学校・甘楽分校開校
1900 (明治33)	群馬県富岡中学校に改称
1945 (昭和20)	陸軍中野学校が疎開し、終戦まで校舎などを使用
1948 (昭和23)	群馬県立富岡高等学校と改称され現在に至る

② 学校建築史としての価値  
旧七日市藩の藩邸の正殿として建てられた貴重な建物が、現在県立高校内にあり、古くは小学校、中学校の校舎としての役割を果たしています（左表参照）。御殿と黒門は、藩政の歴史とともに学校建築史からも価値のある遺構です。

① 御殿建築としての価値  
全国に現存する江戸時代の城の御殿建築は、高知城（高知県）、川越城の本丸御殿（埼玉県）、二条城（京都府）、掛川城の二ノ丸御殿（静岡県）の計4件です。県内の御殿建築では、当御殿と、妙義神社御殿、前橋城三ノ丸の藩主邸宅を移築されたとする大興寺本堂の3件しか確認されていません。全国的にも数少ない江戸後期の御殿建築として、当御殿は貴重です。

### 御殿・黒門の建築的価値



御殿と黒門は富岡高校（七日市 1425-1）敷地内にあります

富岡高等学校のある七日市は、加賀百万石の大名・前田利家の五男である前田利孝が徳川家より七日市藩主を任じられ、以降12代に渡って藩主を継承していました。七日市藩は約1万石と小大名であったため、城は持たず陣屋を築きました。現在敷地内に残っているのは、陣屋の中心となる正殿の一部である「御殿」と、陣屋の中門であった「黒門」で、この御殿と黒門が今回の登録対象になっています。

国登録有形文化財として登録が決定した「富岡高等学校御殿・黒門」を紹介いたします。

# 富岡高等学校御殿・黒門

名称	群馬県立富岡高等学校御殿 (旧七日市藩陣屋正殿)	群馬県立富岡高等学校黒門 (旧七日市藩陣屋中門)
構造形式	木造平屋建、入母屋破風造。北面を正面とする。1874（明治7）年減築、1932（昭和7）年移築・改築、1976（昭和51）年現在地に移築。	控柱付 切妻造 棧瓦葺。東面を正面とする。1875（明治8）年北甘楽郡役所正門として移築、1925（大正14）年当敷地に移築。1932（昭和7）年現在地に移築。
規模	桁行 35.72 <sup>㍎</sup> 梁間 9.40 <sup>㍎</sup> 床面積 360.80 平方 <sup>㍎</sup>	桁行 3.21 <sup>㍎</sup> 梁間 1.42 <sup>㍎</sup> 床面積 4.55 平方 <sup>㍎</sup>
建造年代	1843（天保14）年	1843（天保14）年

### ③ 本市のランドマーク

1873（明治6）年に明治天皇の皇太后・皇后が富岡製糸場行啓の際、御殿の御座所に仮宿泊、1934（昭和9）年には昭和天皇が陸軍特別大演習の際に御座所に立ち寄りしました。また、1931（昭和6）年に発生した西埼玉地震により校舎が大破しましたが、建て替え時には多くの寄付が集まったことから、御殿と黒門は市民をはじめ多くの人々に親しまれてきたことがうかがえます。御殿と黒門は、富岡高校の象徴的な建物であるとともに、本市のランドマークであり、本市を語る上で欠かせない歴史的建造物の一つです。

身近にある建物が国に評価され、誇りに思います！



富岡高校生徒会会長の細野さん

問い合わせ  
文化財保護課  
（市内線2132）